

アサリ親貝場の確保と小型稚貝活用手法の開発

(予算区分 研究費 研究期間 平成31～R3年度)
担当：水産技術研究所浜名湖分場 小泉康二

【研究の背景とねらい】

- ・ 浜名湖のアサリ漁業は重要な地域産業ですが、近年の漁獲量は、不安定な状況にあるとともに、大きく減少しています。また、平成25、28、29年は資源の減少を背景に、観光渡船潮干狩りが中止になるなど地域経済へ大きな影響を与えました。
- ・ 漁業者は、アサリ資源を増やし安定的に利用するため、漁獲量を制限するほか、天然採苗や被覆網を使用した親貝の保護など多くの取組を進めています。
- ・ しかし、極度に資源量が減少している現状では、資源回復の要となる親貝資源も不安定な状況であり、資源の回復、安定化は困難です。
- ・ 一方で、これまでの調査の結果、かつて殻長20mm以上の移植用稚貝が大量に発生していた湖奥部などでは、着底から殻長10mm程度までの「小型稚貝」は多く発生するものの、その後は消失してしまうことが確認されています。
- ・ そこで、カキ殻等が堆積し、アサリ漁場として未利用地を親貝場として有効活用する手法を開発します。また、湖奥部で発生する小型稚貝を保護育成し、移植用稚貝や親貝として有効利用する手法を検討し、アサリ資源の早期回復を図ります。



湖南部に点在するカキ殻場にアサリ稚貝を放流し、親貝として保護育成

【期待される効果】

- ・ 食害対策や漁場管理などに要する負担の少ない親貝場の形成により、アサリ資源の早期回復が図られる。
- ・ これまで、利用されることなく消失していた小型稚貝を有効活用することで、漁獲の安定化が図られる。

【年次計画】

小課題名	研究年度			研究内容
	31	R2	R3	
1. 未利用漁場の親貝場活用手法の開発	○	○	○	未利用魚場を親貝場として評価し、活用手法を開発します。
2. 小型稚貝の有効活用手法の検討	○	○	○	小型稚貝を保護育成するとともに、移植用や親貝として、新たに有効利用する方法を検討します。

(作成 平成31年4月)